

J4808.4J/2416.3

J123519

シカゴ日系百年史

伊藤一男著
シカゴ日系人会発行

FAR EASTERN LIBRARY
UNIVERSITY OF CHICAGO LIBRARY

シカゴ日系百年史 ■ 目次

■序文

先没日系人に本書を捧げるー内本忠 ii

各方面の協力支援に感謝するー菅野武雄 vi

第一章 日米交流史序章(一八七〇―一九九)

この地にふれた初期の日本人群像…………… 3

“われらが旗”のもとに…………… 3

無視され続けた中西部…………… 4

〇・一五パーセントの記述…………… 4

一八七二年が交流元年…………… 7

岩倉ミッシヨン一行の見たシカゴ…………… 8

近代日本の夜明け…………… 8

使節団は総勢百七人…………… 9

カルチャー・ショック譚…………… 12

一八七一年大火直後の街…………… 14

久米邦武『米欧回覧実記』…………… 14

大火見舞いに五千ドル…………… 19

知日家ストーンの活躍…………… 25

初期民間遣米使たちの見たシカゴ…………… 26

最初に三人の日本人…………… 26

高橋是清は何を見たか…………… 28

そこに“知識”があった…………… 29

南方熊楠と『大日本』…………… 30

片山潜の活躍…………… 31

作家二人の眼…………… 32

藤井三郎の“シカゴ案内”…………… 34

高峰譲吉飛躍の地…………… 36

コロンビア万国博覧会と日本人…………… 38

五十万ドルを投じて参加…………… 38

和製ファースト・レディの活躍…………… 40

鳳凰殿の建設…………… 41

新聞特派員が遂一報道…………… 42

落成式にキャリ節…………… 45

新時代に向かって…………… 46

多彩な人物・文化交流の花開く…………… 47

日本茶を初めて喫した大統領…………… 47

花田常喜老の回想…………… 50

ジャパニーズ・ビジネスマン…………… 53

日本の味噌油も第一歩…………… 55

ニッポン自動車元年…………… 56

仏教東漸開始…………… 56

鈴木大拙とアメリカ…………… 58

紫色に煙る街にて…………… 92

『赤い馬車』から…………… 95

「ジー・ホイズ」「サノバガン」…………… 98

埴原報告「日本人は五、六百人」…………… 100

賭博場繁盛記…………… 103

日本人無宿やあわれ…………… 106

“シカゴ作家”の問題提起…………… 110

一九〇六年に流れ着いた移民の回想…………… 112

菊池直記との出会い…………… 112

不法入国者の群…………… 114

「日米紳士協約」前後…………… 117

「ミッコウカイ」とフロンティア…………… 119

贅れゆく仲間たち…………… 121

日本人娼婦二十人をめぐって…………… 123

柴田忠次郎の商売…………… 123

三百人余の女たち…………… 126

シカゴ青楼の終焉…………… 127

渡辺はま子「柴田は祖父です」…………… 129

映写機を初めて日本へ…………… 133

大サーカス団に入った柔道ショー…………… 135

牛山政成苦学の記録…………… 135

柔道クラブ第一号…………… 139

第二章 日本人漂着最盛期

(一九〇〇―二〇年代初期)

文芸作品に見るシカゴの日々…………… 85

永井荷風『市俄古の二日』…………… 85

前田河広一郎という作家…………… 87

アメリカ社会への観察眼…………… 90

谷譲次の体験小説…………… 91

めりけんじやっぶ往来記…………… 92

旅のつばくる面白見聞	139
一九一〇年代の風景	143
アミューズ・メント・パークの住人たち	145
糊口のために	145
香具師まがいの口上で	148
玉コガシで失敗自殺	152
浪曲をうたって人を呼ぶ	156
日本人留學生の春秋	158
光は東方から	158
松田竹千代『無宿の足跡』	159
新村安彦手記	163
悲劇の外交官・来栖三郎も	167
嶋貫信男、挫折の青春譜	170
スタックヤードの巷で	172
男子の本懐はどこへ	177
錚錚たるシカゴ留學生群	181

第三章 太平洋上嵐の前夜(一九三〇年代)

日本人団体の黎明期	187
「小東京」のない社会	187
日本人基督教青年会	191

日本倶楽部と日系企業	193
ある商社マンの回想	194
日本人協会	196
年ごとに高まる日本人排斥の波	200
ジャップからニップまで	200
日露戦争と黄禍思想のはざま	201
冷却する笑顔外交	203
写真結婚自主規制	205
ついに「排日移民法」実施	207
可愛い使節たち	208
日の丸の外で生きる	210
心ない差別の地肌	211

ハートランド・オブ・アメリカ

写真家・ハリー重田の生涯	213
飯田深雪、あるいは優雅な生活	217
禁酒法にも抜穴が	218
文化生活の中の日本料理	220
日本料理店第一号	222
日本語新聞事始め	225
河野増登のプール屋稼業	226
大恐慌とシカゴ開基百年記念万国博	227
一九二九年十月	227

平和ショーから政治ショーへ	229
職を求めて会場入り	233
関東軍・板垣征四郎も	236
戦前最後の「ジャパン・デー」	237

不況の嵐に翻弄された日々

向山英文の見た大暴風雨	240
持株も十分の一に減った	242
浮遊動物のごとく	244
旅芸人「頭山一座」	250

市俄古日本人共済会に結集

一同胞の死が発端	252
相互扶助と救済を目的に	257
内紛始末記	262
領事に辞職をつきつけた	264
名もなく産もなく消えた人々	268
母国への献金運動高まる	268
身内なき死者の群	271
世話人哀話	273
過去帳は語らず	275

第四章 日米戦争苦悩の三年九カ月 (一九四〇年代)

真珠湾奇襲に茫然自失

通商航海条約廃棄以後	285
時限爆弾が仕掛けられた	288
小さな社会に無言の壁	290
村田聖明の見た「大地」	293
十二月七日の証言	296

激動する鉄柵の内と外

逮捕第一号大里昌治	300
全米の逮捕者三二五〇人	302
星条旗よ永遠なれ	307
収容所一九四二―四四年	310

一九四三年十二月、日本人四人の逮捕

突如理由なき拘束	314
「マンハッタン計画」との関連	317
河野増登に黒竜会員の疑い	318
シカゴの逮捕者九名に	322
親善の象徴、鳳凰殿焼失	324
終戦に思いこもる	326

転住者が創る新時代への幕開け……………330

各キャンプから続々集まった……………330

「全米日系人住所録」より……………333

日系社会発展への始動……………344

第五章 戦後日誌一（一九四五―七五年）

1945年（昭和20年）……………349

シカゴ転住者委員会発足……………349

1946年（昭和21年）……………349

日本難民救済委員会総がかりで……………349

1947年（昭和22年）……………350

従軍日系人三万三千余人……………350

1948年（昭和23年）……………351

シカゴ商業会議所スタート……………351

1949年（昭和24年）……………351

日系人ホテル・アパート組合創立……………351

1950年（昭和25年）……………352

JACL全国大会開催……………352

1951年（昭和26年）……………352

対日講和条約祝賀会……………352

1952年（昭和27年）……………353

戦後初代総領事に黒田音四郎……………353

1953年（昭和28年）……………353

安武嘉一郎一世初の市民権……………353

戦争花嫁哀話……………354

1954年（昭和29年）……………354

日本航空シカゴ出張所開設……………354

1955年（昭和30年）……………355

松本登美子歌会始め入選……………355

1956年（昭和31年）……………355

戸栗アイバ仮釈放……………355

1957年（昭和32年）……………355

日本人共済会25周年……………355

1958年（昭和33年）……………355

JACL支部が正岡マイクラ表彰……………355

1959年（昭和34年）……………356

小沢武雄総領事着任……………356

1960年（昭和35年）……………356

日本商社続々進出……………356

日米修好百年祭盛大に……………356

1961年（昭和36年）……………358

山崎安馬に紺綬褒章……………358

1962年（昭和37年）……………358

「さくら放送」の電波流れる……………358

1963年（昭和38年）……………359

シカゴ剣道クラブ設立へ……………359

1964年（昭和39年）……………359

シカゴ東京銀行創業……………359

シカゴ日系人会発足……………359

1965年（昭和40年）……………362

移民法改正……………362

初の生存者叙勲三人……………362

1966年（昭和41年）……………363

日本商工会議所創立……………363

四氏に勲五等授与……………363

中河頼寛にも勲五等……………363

1967年（昭和42年）……………363

JACL大会に下田大使ら……………363

1968年（昭和43年）……………364

シカゴ・ペルー会が日の目……………364

ニセ勲章事件の顛末……………365

モントローズ隣接墓地購入へ……………366

明治百年と立州百五十年に桜……………367

ハワイ元年者移民百年……………368

屋形船「東京丸」が市へ……………369

『シカゴ日系人史』刊行……………370

百年を祝って各種行事……………371

日本文化展も……………372

1969年（昭和44年）……………373

日会会長に杉本幸八郎留任……………373

「竜田丸」模型三十年ぶりに……………374

トーマス野口の闘い……………375

歌舞伎一行七十八来市……………376

シカゴ仏教会25周年	376
ローウ収容所跡に記念碑	377
1970年(昭和45年)	378
日本商工会議所百社を超える	378
女性二人に叙勲	378
日本語熱盛ん	379
十三州の日本人四千人余	380
初の日本映画週間開幕	381
1971年(昭和46年)	381
日会会長に橋高亀一	381
一世と三世の交流	382
ビル細川「太平洋の空白」講演	383
日本の財界来市盛ん	384
シカゴ大火百年目に	384
アメリカの日系人六十万人	385
1972年(昭和47年)	386
日系金融機関続々と	386
駐日大使にシカゴの大物	386
高田好胤師講演	387
日本文化の紹介に熱	388

1973年(昭和48年)	389
日会会長に松本幸一	389
日米貿易摩擦の芽	389
ローウ収容所慰霊の旅	390
シカゴ大等に研究費	391
シカゴ日系人の宗教調査	392
定住者会会長に初の女性	392
1974年(昭和49年)	394
日米の絆強化	394
米国仏教団七十五周年	395
鈴木千夫総領事情別の壮行会	396
日系銀行七行に	396
日系人会創立十年	398
1975年(昭和50年)	398
二世ポストの進出	398
奨学金活動盛ん	399
天皇、皇后両陛下を迎えて	400
建国二百年祝賀会	403

第六章 戦後日誌二(一九七六—一九八五)

1976年(昭和51年)	407
藤井寮」と『シカゴ新報』小伝	407
日会会長に初の二世内本忠就任	410
大統領令第9066号撤廃	411
建国二百年記念祭	411
全米二世ベテラン大会	413
デイリー市長死去	414
1977年(昭和52年)	415
戸栗アイバに大統領特赦	415
北米日系人キリスト教会百年	416
1978年(昭和53年)	417
ウォータータワーに日本の「文化情報部」開設	417
南部陽一郎博士に文化勲章	418
1979年(昭和54年)	420
初の女性市長誕生	420
ジャパン・ツデーに本物のみこし	421
ローマ法王来市百万人のミサ	421

1980年(昭和55年)	422
日米文化会館建設に多額寄付	422
カーター大統領署名	423
日米協会五十周年	424
1981年(昭和56年)	425
シカゴ十年会発足	425
シカゴ新報社長に菅野武雄	426
公聴会で涙の証言	427
全米の日系人七十万人に	428
1982年(昭和57年)	428
日本人共済会四百人	428
硫黄島とハートマウンテンより	430
日米航空路交渉の行方	431
日系社会初の五つ子誕生	432
日本庭園「三嶼園」完成	434
国際フオーク・フェアでの活躍	435
1983年(昭和58年)	436
寿司バーに人気	436
戦後補償問題をめぐって	437
州の日系人一万八千人余	438
日本語学校「お話し会」	439

日航機シカゴ線就航……………	440
初の黒人市長誕生……………	441
茶道、生花の心が広がる……………	441
日米企業家交流……………	443
ウェブスターから「JAP」が消える……………	444
1984年（昭和59年）……………	446
アジア系市民が一堂に……………	446
『シカゴ新報』のタンカ……………	447
ゴー・フォー・ブローック写真展……………	448
トロントからのお客様……………	449
シカゴなかよし会発足……………	449
双葉日本人校移転……………	450
京都若柳流一行来市……………	451
百歳以上のお年寄り二人……………	452
1985年（昭和60年）……………	454
スペースシャトルに鬼塚中佐……………	454
日米経済交流に民間の力……………	455
山路キム瞳嬢がミス日系三位人賞……………	457
日系社会の中のニッポン……………	458
資料 日系人関係団体……………	463
あとがき……………	475
人名索引……………	510

第一章 日米交流史序章（二八七二―一九九九年）

人 名 索 引

* 採録の範囲は「序文」および「あとがき」までを含む。

〔ア〕

安芸ジョージ…………… 466
 安里徳仁…………… 474
 安里昇…………… 386, 389, 416
 安曇穂明…………… 453
 安達邦彦…………… 386, 389, 392, 395
 安部俊吾…………… 133
 安部トム…………… 6
 安部トム…………… 335
 安倍晋太郎…………… 439
 安仁屋幸純…………… 214
 安藤太郎…………… 10
 安納義人…………… 467
 阿久野秀子…………… 450
 阿部ジャッキー豊…………… 214
 阿部常彦…………… 430
 阿部豊治(照洋)…………… 349
 愛知蔡…………… 465
 青木周蔵…………… 203, 207
 青木辰夫…………… 386, 389, 392
 青木年雄(飄斉)…………… 69
 青木正久…………… 434
 青柳譲…………… 469
 青柳良…………… 449
 赤木悌二…………… 334, 357, 468
 赤塚紀子…………… 471
 赤羽四郎…………… 158
 赤松連城…………… 57
 明石俊雄…………… 387
 縣茂…………… 456
 秋沢公二…………… 429, 446, 464
 秋田哲也…………… 445
 秋月邦臣…………… 116
 秋山栄司…………… 386
 秋山佐和子…………… 470
 浅田チエノ…………… 371
 浅野輔…………… 384
 浅野総一郎…………… 205

浅野博嗣…………… 438
 浅野浩志…………… 366
 朝海浩一郎…………… 356
 朝倉亀之丞…………… 358
 足利祐敬…………… 376, 436, 453, 467
 芦野弘…………… 261, 268
 穴水キャサリン…………… 474
 穴水養一…………… 380
 天野市助…………… 357
 天野貞次郎…………… 277
 天野T…………… 280
 荒井ジョー…………… 340
 荒井達弥…………… 68, 69, 129
 荒居三郎…………… 134, 135
 荒金俊彦…………… 359
 荒上常一…………… 116
 荒川要博…………… 352, 355, 356, 362, 373, 383, 419, 422, 467, 471
 荒川静甫…………… 378, 384, 471
 荒川善蔵…………… 272
 荒木栄吉…………… 353
 荒国誠…………… 354
 荒谷節夫…………… 436
 新井勝紘…………… 31
 新井弘一…………… iii, 446, 450, 451, 453, 455, 461
 新井泉太郎…………… 471
 新井仙太…………… 418, 425, 429, 447, 464
 新井裕英…………… 446, 464
 有川貞雄…………… 357
 有島武郎…………… 407
 有田八郎…………… 265
 有田由雄…………… 371
 有地一昭…………… 387, 391
 有馬謙二…………… 358
 有馬純義(花園一郎)…………… 354
 有馬徳之助…………… 279
 有松喬助…………… 398
 有吉ジョージ良一…………… 398
 蟻野直涙…………… 42
 栗野原基之…………… 378, 379, 382, 386

シカゴ日系百年史

発行
 1986年4月25日

著者
 伊藤一男

発行
 シカゴ日系人会
 155 E. Ohio St. Chicago, Ill. 60611, U.S.A.
 Tel. 944-6370

発行者
 内本テッド忠

編集委員長
 菅野フランク武雄

製作・日本発売所
 PMC出版株式会社
 〒102 東京都千代田区飯田橋4-4-5
 電話(03)264-5774 振替(東京)5-104372

印刷=正美印刷所・製本=イマキ製本所

©Japanese American Service Committee

シカゴ日系百年史

すでに各地の日系移民史について多くの成果を世に送り出した著者が、盲点になっているシカゴに目を向けて取り組んだ移民史。

戦前シカゴの日本人移民はせいぜい五百人たらずだったため、この地域の本格的な日系人史は大戦中の一九四三年から始まる。一般には考えられてきたが、この大著は今まで空白だった戦前の時期にスペースの大半をあてている。著者は昨年発表した『市俄古(シカゴ)に燃ゆ』(PMO出版)を、本書の序章、とのべるほど大きな意欲をみせている。

一口にいうと、これはシカゴを舞台にした日米の交流史といえるだろう。岩倉使節団がこを訪れた一八七二年(明治五年)をシカゴの日米交流元年とし、大火の惨状生々しい跡をみて、川上音二郎と貞奴一座、永井荷風、前田河広一郎、谷謙次、来栖三郎、渡辺はま子、飯田深雪といった具合で、しかもこの間に無名の移民たちの回想をふんだんに交え、あまり脚光を浴びていなかったこのシカゴという都市の、意外な顔を鮮やかに浮かび上がらせている。

移民史の盲点埋める

このあと、次ぎにいろいろ「系」とし、時代の流れをタテ糸として、色彩豊かな移民史を織り込んでみせた。もちろん、注

を浴びていなかったこのシカゴという都市の、意外な顔を鮮やかに浮かび上がらせている。

急速に高まり、今年に入ってから、『ハワイの日本人日系人の歴史』上巻(ハワイ報知社)や、『移民史』Ⅲアメリカ・カナダ編(新泉社)などが出版されている。物の国際化から人間の国際化へ私たちの関心が拡大している現在、移民社会の研究は急務の課題といえるのではないかと感じている間にも、高齢者は世を去っているのだから。

シカゴ日系人会館発行、PMO出版発売・七、二〇〇円
◇いとう・かずお 一九二四年旭川市生まれ。日本人移民史研究家。